

科目名称	科目区分	記当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
文芸学研究法	文芸学研究科 文芸学専攻 共通科目	1	2	文芸学研究科修士課程で研究を始めるにあたり、人文分野における資料の収集、整理の方法や先行研究の調査方法に関する技術を習得する。また、各自の研究テーマにしたがって助言をうけながら修士論文執筆の具体的な計画を立て準備を始めていくことを目指す。	1.修士課程で研究を始めるにあたり資料の収集や先行研究の調査などの方法が身につけている。(客観性・自律性) 2.修士論文のテーマに沿った具体的な研究計画を立てるための技能が身につけている。(課題発見・解決力) 3.学術論文を執筆する技術を身につけ各自のテーマに沿った準備を始めることができる。(リーダーシップ)	1.修士課程で研究を始めるにあたり資料の収集や先行研究の調査などの方法がある程度身につけている。(客観性・自律性) 2.修士論文のテーマに沿った具体的な研究計画を立てるための技能がある程度身につけている。(課題発見・解決力) 3.学術論文を執筆する技術身につけ各自のテーマに沿った準備を始めることができる。(リーダーシップ)
古代日本文学研究A I	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	古代日本文学における散文を輪読する。古典文学読解の基礎能力や、神話や物語の話し型、作中和歌の特徴などの基本的理解をふまえたうえで、神話や物語がかかえている諸問題を掘り起こすために必要な資料調査・分析・考察の方法が身につくようになる。	1.神話や物語の話し型を説明できる。(客観性・自律性) 2.作中和歌と神話・物語の関係性について説明できる。(客観性・自律性) 3.神話・物語を精読し、そこに含まれる諸問題を提起できる。(課題発見・解決力) 4.自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)	1.神話や物語の話し型を基本的に説明できる。(客観性・自律性) 2.作中和歌と神話・物語の関係性について基本的に説明できる。(客観性・自律性) 3.神話・物語を精読し、そこに含まれる諸問題をある程度提起できる。(課題発見・解決力) 4.自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)
古代日本文学研究A II	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	古代日本文学における散文を輪読する。古典文学読解の基礎能力や、神話や物語の話し型、作中和歌の特徴などの基本的理解をふまえたうえで、神話や物語がかかえている諸問題を掘り起こすために必要な資料調査・分析・考察の方法が十分に身につくようになる。	1.神話や物語の話し型を十分に説明できる。(客観性・自律性) 2.作中和歌と神話・物語の関係性について十分に説明できる。(客観性・自律性) 3.神話・物語を精読し、そこに含まれる諸問題を十分に提起できる。(課題発見・解決力) 4.自らの提起した問題・課題を、客観的方法で十分に伝えられる。(リーダーシップ)	1.神話や物語の話し型を中等程度説明できる。(客観性・自律性) 2.作中和歌と神話・物語の関係性について中等程度説明できる。(客観性・自律性) 3.神話・物語を精読し、そこに含まれる諸問題を中等程度提起できる。(課題発見・解決力) 4.自らの提起した問題・課題を、客観的方法で中等程度伝えられる。(リーダーシップ)
古代日本文学研究B I	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	古代日本文学における韻文を輪読する。韻文、特に和歌は古代文学の中心を成すものであり、まずはそのことに関する文学史的な基本知識と、当時の文化・社会の状況、和歌そのもの成り立ちなどについての基本知識をふまえて、一首ずつ丹念に読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法が身につくようになる。	1.古代日本文学における和歌史を、当時の文化や社会の状況もふまえて説明することができる。(客観性・自律性) 2.和歌資料を調査し分析することができる。(課題発見・解決力) 3.先行研究を整理し、問題点を見つけ出し、自らの説を立ち上げることができる。(課題発見・解決力) 4.和歌を読解・鑑賞することができる。(課題発見・解決力) 5.自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)	1.古代日本文学における和歌史の流れを説明することができる。(客観性・自律性) 2.和歌資料を調査し分析する方法を身につけている。(課題発見・解決力) 3.先行研究を整理し、問題点を見つけ出すことができる。(課題発見・解決力) 4.和歌を、ある程度読解・鑑賞することができる。(課題発見・解決力) 5.自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)
古代日本文学研究B II	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	古代日本文学における韻文を輪読する。韻文、特に和歌は古代文学の中心を成すものであり、まずはそのことに関する文学史的な基本知識と、当時の文化・社会の状況、和歌そのもの成り立ちなどについての基本知識をふまえて、一首ずつ丹念に読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法が十分に身につくようになる。	1.古代日本文学における和歌史を、当時の文化や社会の状況もふまえて十分に説明することができる。(客観性・自律性) 2.和歌資料を調査し十分に分析することができる。(課題発見・解決力) 3.先行研究を整理し、問題点を見つけ出し、自らの説を立ち上げることができる。(課題発見・解決力) 4.和歌を読解・鑑賞することが十分にできる。(課題発見・解決力) 5.自らの提起した問題・課題を、客観的方法で十分に伝えられる。(リーダーシップ)	1.古代日本文学における和歌史の流れを中等程度説明することができる。(客観性・自律性) 2.和歌資料を調査し分析する方法を中等程度身につけている。(課題発見・解決力) 3.先行研究を整理し、問題点を見つけ出すことが中等程度できる。(課題発見・解決力) 4.和歌を、ある程度読解・鑑賞することが中等程度できる。(課題発見・解決力) 5.自らの提起した問題・課題を、客観的方法で中等程度伝えられる。(リーダーシップ)
中・近世日本文学研究A I	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	中・近世文学における散文を取り上げて輪読する。中・近世の散文はそれ以前の文学の影響を強く受けたものであり、まずはそのことに関する文学史的な基本知識の確認をふまえて、作品を丹念に読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法が身につくようになる。	1.中・近世日本文学における散文史を、当時の文化や社会の状況もふまえて説明することができる。(客観性・自律性) 2.中・近世の散文資料を調査し分析することができる。(課題発見・解決力) 3.先行研究を整理し、問題点を見つけ出し、自らの説を立ち上げることができる。(課題発見・解決力) 4.中・近世の散文をある程度読解・鑑賞することができる。(課題発見・解決力) 5.自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)	1.中・近世日本文学における散文史の流れを説明することができる。(客観性・自律性) 2.中・近世の資料を調査し分析する方法を身につけている。(課題発見・解決力) 3.先行研究を整理し、問題点を見つけ出すことができる。(課題発見・解決力) 4.中・近世の散文をある程度読解・鑑賞することができる。(課題発見・解決力) 5.自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)
中・近世日本文学研究A II	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	中・近世文学における散文を取り上げて輪読する。中・近世の散文はそれ以前の文学の影響を強く受けたものであり、まずはそのことに関する文学史的な基本知識の確認をふまえて、作品を丹念に読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法が十分に身につくようになる。	1.中・近世日本文学における散文史を、当時の文化や社会の状況もふまえて十分に説明することができる。(客観性・自律性) 2.中・近世の散文資料を十分に調査し分析することができる。(課題発見・解決力) 3.先行研究を整理し、問題点を見つけ出し、十分に自らの説を立ち上げることができる。(課題発見・解決力) 4.中・近世の散文を十分に読解・鑑賞することができる。(課題発見・解決力) 5.自らの提起した問題・課題を、客観的方法で十分に伝えられる。(リーダーシップ)	1.中・近世日本文学における散文史の流れをある程度説明することができる。(客観性・自律性) 2.中・近世の資料を調査し分析する方法をある程度身につけている。(課題発見・解決力) 3.先行研究を整理し、問題点のある程度見つけ出すことができる。(課題発見・解決力) 4.中・近世の散文をある程度読解・鑑賞することができる。(課題発見・解決力) 5.自らの提起した問題・課題を、客観的方法で中等程度伝えられる。(リーダーシップ)
中・近世日本文学研究B I	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	中・近世文学における韻文を輪読する。韻文、特に和歌は古典文学における主要な文学ジャンルであり、まずは、そのことに関する文学史的な基本知識の確認をふまえて、一首ずつ丹念に読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法が身につくようになる。	1.中近世日本文学における韻文の歴史を、ジャンルの変遷や文化・社会の状況もふまえて説明することができる。(客観性・自律性) 2.和歌・連歌・俳諧等に関する資料を調査・分析し、適切な注釈を付けることができる。(客観性・自律性) 3.先行研究を整理し、問題点を見つけ出し、自らの解釈を提示することができる。(課題発見・解決力) 4.3に基づき、中近世韻文作品に関する研究を行う。(リーダーシップ)	1.中近世日本文学における韻文の歴史の流れをある程度説明することができる。(客観性・自律性) 2.和歌・連歌・俳諧等に関する資料を調査し分析する方法をある程度身につけている。(客観性・自律性) 3.先行研究を整理し、問題点のある程度見つけ出すことができる。(課題発見・解決力) 4.3に基づき、中近世韻文作品に関するレポートをある程度執筆することができる。(リーダーシップ)
中・近世日本文学研究B II	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	中・近世文学における韻文を輪読する。韻文、特に和歌は古典文学における主要な文学ジャンルであり、まずは、そのことに関する文学史的な基本知識の確認をふまえて、一首ずつ丹念に読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法が十分に身につくようになる。	1.中近世日本文学における韻文の歴史を、ジャンルの変遷や文化・社会の状況もふまえて十分に説明することができる。(客観性・自律性) 2.和歌・連歌・俳諧等に関する資料を調査・分析し、適切な注釈を十分に付けることができる。(客観性・自律性) 3.先行研究を整理し、問題点を見つけ出し、自らの解釈を十分に提示することができる。(課題発見・解決力) 4.3に基づき、中近世韻文作品に関する研究を充分に行う。(リーダーシップ)	1.中近世日本文学における韻文の歴史の流れを中等程度説明することができる。(客観性・自律性) 2.和歌・連歌・俳諧等に関する資料を調査し分析する方法を中等程度身につけている。(客観性・自律性) 3.先行研究を整理し、問題点を中等程度見つけ出すことができる。(課題発見・解決力) 4.3に基づき、中近世韻文作品に関するレポートを中等程度執筆することができる。(リーダーシップ)
近代日本文学研究A I	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	近代文学における散文を輪読する。具体的には、文学史および研究史の基本的知識を確認したうえで、作品を読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法が身につくようになる。	1.文学史および研究史の中に、対象とする近代散文を位置づけ評価することができる。(客観性・自律性) 2.近代散文を鑑賞するための専門的な読解技術が身についている。(客観性・自律性) 3.近代散文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる。(課題発見・解決力) 4.自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)	1.文学史および研究史の中に、対象とする近代散文を位置づけ評価することができる。(客観性・自律性) 2.近代散文を鑑賞するための専門的な読解技術がある程度は身につけている。(客観性・自律性) 3.近代散文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる程度はできる。(課題発見・解決力) 4.自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)

科目名称	科目区分	記当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
近代日本文学研究AⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	近代文学における散文を輪読する。具体的には、文学史および研究史の基本的知識を確認したうえで、作品を読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法が充分に身につくようになる。	1. 文学史および研究史の中に、対象とする近代散文を位置づけ評価することができる。(客観性・自律性) 2. 近代散文を鑑賞するための専門的な読解技術が充分に身に付いている。(客観性・自律性) 3. 近代散文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を充分に提起することができる。(課題発見・解決力) 4. 自らの提起した問題・課題を、客観的方法で充分に伝えられる。(リーダーシップ)	1. 文学史および研究史の中に、対象とする近代散文を位置づけ評価することが中等程度はできる。(客観性・自律性) 2. 近代散文を鑑賞するための専門的な読解技術が中等程度は身に付いている。(客観性・自律性) 3. 近代散文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することが中等程度はできる。(課題発見・解決力) 4. 自らの提起した問題・課題を、中等程度客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)。
近代日本文学研究BⅠ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	近代文学における韻文を輪読する。具体的には、文学史および研究史の基本的知識を確認したうえで、作品を読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法が充分に身につくようになる。	1. 文学史および研究史の中に、対象とする近代韻文を位置づけ評価することができる。(客観性・自律性) 2. 近代韻文を鑑賞するための専門的な読解技術が身に付いている。(客観性・自律性) 3. 近代韻文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる。(課題発見・解決力) 4. 自らの提起した問題・課題を、客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)	1. 文学史および研究史の中に、対象とする近代韻文を位置づけ評価することがある程度はできる。(客観性・自律性) 2. 近代韻文を鑑賞するための専門的な読解技術がある程度は身に付いている。(客観性・自律性) 3. 近代韻文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することがある程度はできる。(課題発見・解決力) 4. 自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)
近代日本文学研究BⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	近代文学における韻文を輪読する。具体的には、文学史および研究史の基本的知識を確認したうえで、作品を読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法が充分に身につくようになる。	1. 文学史および研究史の中に、対象とする近代韻文を充分に位置づけ評価することができる。(客観性・自律性) 2. 近代韻文を鑑賞するための専門的な読解技術が充分に身に付いている。(客観性・自律性) 3. 近代韻文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を充分に提起することができる。(課題発見・解決力) 4. 自らの提起した問題・課題を、客観的方法で充分に伝えられる。(リーダーシップ)	1. 文学史および研究史の中に、対象とする近代韻文を位置づけ評価することが中等程度はできる。(客観性・自律性) 2. 近代韻文を鑑賞するための専門的な読解技術が中等程度は身に付いている。(客観性・自律性) 3. 近代韻文を専門的に読む知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することが中等程度はできる。(課題発見・解決力) 4. 自らの提起した問題・課題を、中等程度客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)
日本語研究AⅠ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	古代日本語について、文学研究にも資することをめざして、さまざまな観点からの調査・研究を行う。古代日本語は近代日本語とはいろいろな点で異なり、内省もきかないものであるから、まずはその点に関する基本的な知識とともに、古代日本語を調査するにあたっての方法を学び、それを具体的な古典作品に適用することができるようになる。	1. 古代日本語に関する専門的な知識を習得し、古代日本語の特徴を理解できるようになる。(客観性・自律性) 2. 古代日本語を調査するための方法・技能が使えるようになる。(課題発見・解決力) 3. 古代日本語による表現のありように即して思考・判断し、その結果を口頭あるいは文章で表現できるようになる。(課題発見・解決力) 4. この科目をとおして、古代日本語あるいは古代文学に対する関心・意欲・態度を研究レベルまで強めることができるようになる。(リーダーシップ)	1. 古代日本語に関する専門的な知識がある程度は習得し、古代日本語の特徴のある程度を理解できるようになる。(客観性・自律性) 2. 古代日本語を調査するための方法・技能がある程度使えるようになる。(課題発見・解決力) 3. 古代日本語による表現のありように即して思考・判断し、その結果を口頭あるいは文章で表現できるようになる。(課題発見・解決力) 4. この科目をとおして、古代日本語あるいは古代文学に対する関心・意欲・態度をある程度強めることができるようになる。(リーダーシップ)
日本語研究AⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	古代日本語について、文学研究にも資することをめざして、さまざまな観点からの調査・研究を行う。古代日本語は近代日本語とはいろいろな点で異なり、内省もきかないものであるから、まずはその点に関する基本的な知識とともに、古代日本語を調査するにあたっての方法を学び、それを具体的な古典作品に適用することが充分にできるようになる。	1. 古代日本語に関する専門的な知識を習得し、古代日本語の特徴を充分に理解できるようになる。(客観性・自律性) 2. 古代日本語を調査するための方法・技能が使えるようになる。(課題発見・解決力) 3. 古代日本語による表現のありように即して思考・判断し、その結果を口頭あるいは文章で充分に表現できるようになる。(課題発見・解決力) 4. この科目をとおして、古代日本語あるいは古代文学に対する関心・意欲・態度を研究レベルまで強めることができるようになる。(リーダーシップ)	1. 古代日本語に関する専門的な知識を中等程度は習得し、古代日本語の特徴の幾分かを理解できるようになる。(客観性・自律性) 2. 古代日本語を調査するための方法・技能が中等程度使えるようになる。(課題発見・解決力) 3. 古代日本語による表現のありように即して思考・判断し、その結果を口頭あるいは文章で中等程度表現できるようになる。(課題発見・解決力) 4. この科目をとおして、古代日本語あるいは古代文学に対する関心・意欲・態度を中等程度強めることができるようになる。(リーダーシップ)
日本語研究BⅠ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	近代日本語について、文学研究にも資することをめざして、さまざまな観点からの調査・研究を行う。まずは近代日本語に関する基本的な知識とともに、近代日本語を調査するにあたっての方法を学び、それを具体的な近代文学作品に適用することができるようになる。	1. 日本語の歴史における近代語の特徴を知りその時代的な位置付けをすることができる。(客観性・自律性) 2. 近代語全体の様相に関する知識が身に付いている。(客観性・自律性) 3. 近代語の実態を明らかにするための語学的な調査や分析の知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することができる。(課題発見・解決力) 4. 自らの提起した問題・課題を客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)	1. 日本語の歴史における近代語の特徴を知りその時代的な位置付けをすることがある程度はできる。(客観性・自律性) 2. 近代語全体の様相に関する知識がある程度は身に付いている。(客観性・自律性) 3. 近代語の実態を明らかにするための語学的な調査や分析の知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することがある程度はできる。(課題発見・解決力) 4. 自らの提起した問題・課題を、ある程度客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)。
日本語研究BⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	近代日本語について、文学研究にも資することをめざして、さまざまな観点からの調査・研究を行う。まずは近代日本語に関する基本的な知識とともに、近代日本語を調査するにあたっての方法を学び、それを具体的な近代文学作品に適用することが充分にできるようになる。	1. 日本語の歴史における近代語の特徴を知りその時代的な位置付けをすることが充分にできる。(客観性・自律性) 2. 近代語全体の様相に関する知識が充分に身に付いている。(客観性・自律性) 3. 近代語の実態を明らかにするための語学的な調査や分析の知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて充分に問題・課題を提起することができる。(課題発見・解決力) 4. 自らの提起した問題・課題を客観的方法で充分に伝えられる。(リーダーシップ)	1. 日本語の歴史における近代語の特徴を知りその時代的な位置付けをすることが中等程度はできる。(客観性・自律性) 2. 近代語全体の様相に関する知識が中等程度は身に付いている。(客観性・自律性) 3. 近代語の実態を明らかにするための語学的な調査や分析の知識と方法を修得し、それを自らの研究テーマに引き付けて問題・課題を提起することが中等程度はできる。(課題発見・解決力) 4. 自らの提起した問題・課題を、中等程度客観的方法で伝えられる。(リーダーシップ)。
漢文学研究Ⅰ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	漢文学作品を輪読し、その文学史上、また思想上の意義を明らかにする。漢文訓読の基礎と、日本文学に大きな影響を与えた中国の歴史、また思想、文学に関わる基本的知識をふまえ、作品を読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法が理解できるようになる。	1. 漢文および漢文学に関する専門的な知識を習得し、その世界が理解できるようになる。(客観性・自律性) 2. 白文の読解練習をとおして、漢文訓読の技能が身に付く。(課題発見・解決力) 3. 漢文学のと特徴を捉え、日本文学との相異に関して思考・判断し、その成果を口頭あるいは文章で表現できるようになる。(課題発見・解決力) 4. 漢文学の日本文学に対する影響に関する広範な関心と、その影響に関する意欲と態度を強めることができるようになる。(リーダーシップ)	1. 漢文および漢文学に関する専門的な知識を習得し、その世界がある程度は理解できるようになる。(客観性・自律性) 2. 白文の読解練習をとおして、漢文訓読の技能がある程度身に付く。(課題発見・解決力) 3. 漢文学のと特徴を捉え、日本文学との相異に関して思考・判断し、その成果を口頭あるいは文章である程度表現できるようになる。(課題発見・解決力) 4. 漢文学の日本文学に対する影響に関する広範な関心と、その影響に関する意欲と態度をある程度強めることができるようになる。(リーダーシップ)。
漢文学研究Ⅱ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	漢文学作品を輪読し、その文学史上、また思想上の意義を明らかにする。漢文訓読の基礎と、日本文学に大きな影響を与えた中国の歴史、また思想、文学に関わる基本的知識をふまえ、作品を読解・批評・鑑賞するために必要な資料調査・分析・考察の方法が充分に理解できるようになる。	1. 漢文および漢文学に関する専門的な知識を習得し、その世界が充分に理解できるようになる。(客観性・自律性) 2. 白文の読解練習をとおして、漢文訓読の技能が充分に身に付く。(課題発見・解決力) 3. 漢文学のと特徴を捉え、日本文学との相異に関して思考・判断し、その成果を口頭あるいは文章で充分に表現できるようになる。(課題発見・解決力) 4. 漢文学の日本文学に対する影響に関する広範な関心と、その影響に関する意欲と態度を充分に強めることができるようになる。(リーダーシップ)	1. 漢文および漢文学に関する専門的な知識を習得し、その世界が中等程度は理解できるようになる。(客観性・自律性) 2. 白文の読解練習をとおして、漢文訓読の技能が中等程度身に付く。(課題発見・解決力) 3. 漢文学のと特徴を捉え、日本文学との相異に関して思考・判断し、その成果を口頭あるいは文章で中等程度表現できるようになる。(課題発見・解決力) 4. 漢文学の日本文学に対する影響に関する広範な関心と、その影響に関する意欲と態度を中等程度強めることができるようになる。(リーダーシップ)。

科目名称	科目区分	記当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
書誌学研究Ⅰ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	所謂「和 본리테라시」について、古代から現代に至るメディアの変遷を軸に、具体的なモノとしての文献資料の性質とその扱い方を理解できるようになる。さらには現代の機械可読テキストや電子化された画像メディアについても、それぞれのメディアの特質と限界とについて具体的かつ詳細に理解できるようになる。	1.文献資料(書物)についての深い書誌学的知識を獲得する。(客観性・自律性) 2.毛筆文字や変体仮名を読むためのスキルが身につくようになる。(課題発見・解決力) 3.2に基づいて高度な書誌調査を実践し、課題の発見や考察を行うことができるようになる。(リーダーシップ)	1.文献資料(書物)についての書誌学的知識をある程度身につける。(客観性・自律性) 2.毛筆文字や変体仮名を読むことがある程度できるようになる。(課題発見・解決力) 3.2に基づいて書誌調査がある程度実践できるようになる。(リーダーシップ)
書誌学研究Ⅱ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	所謂「和 본리테라시」について、古代から現代に至るメディアの変遷を軸に、具体的なモノとしての文献資料の性質とその扱い方を十分に理解できるようになる。さらには現代の機械可読テキストや電子化された画像メディアについても、それぞれのメディアの特質と限界とについて具体的かつ詳細に十分に理解できるようになる。	1.文献資料(書物)についての深い書誌学的知識を獲得する。(客観性・自律性) 2.毛筆文字や変体仮名を読むためのスキルが十分に身につくようになる。(課題発見・解決力) 3.2に基づいて高度な書誌調査を実践し、課題の発見や考察を行うことが十分にできるようになる。(リーダーシップ)	1.文献資料(書物)についての書誌学的知識を中等程度身につける。(客観性・自律性) 2.毛筆文字や変体仮名を読むことが中等程度できるようになる。(課題発見・解決力) 3.2に基づいて書誌調査が中等程度実践できるようになる。(リーダーシップ)
日本文学基礎研究AⅠ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	上中古・近世日本文学作品のうちから、対象を絞り精読することによって、その作品の特質や問題点が具体的に理解できるようになる。また、その作品が当時の、あるいは現在の社会においてもつ意義についても理解でき、また、演習形式を取ることに、問題を提起し、客観的手法によって課題を解決する能力が身につくようになる。	1.対象作品の表現における特徴を説明できる。(客観性・自律性) 2.対象作品の時代背景、社会とのかわりについて説明することができる。(客観性・自律性) 3.対象作品を理解するための着眼点を提起することができる。(課題発見・解決力) 4.対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的手法によって解決することができる。(課題発見・解決力)(リーダーシップ)	1.対象作品の表現における特徴をある程度説明できる。(客観性・自律性) 2.対象作品の時代背景、社会とのかわりについてある程度説明することができる。(客観性・自律性) 3.対象作品を理解するための着眼点をある程度提起することができる。(課題発見・解決力) 4.対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的手法によってある程度解決することができる。(課題発見・解決力)(リーダーシップ)
日本文学基礎研究AⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	上中古・近世日本文学作品のうちから、対象を絞り精読することによって、その作品の特質や問題点が具体的に十分に理解できるようになる。また、その作品が当時の、あるいは現在の社会においてもつ意義についても十分に理解でき、また、演習形式を取ることに、問題を提起し、客観的手法によって課題を解決する能力が十分に身につくようになる。	1.対象作品の表現における特徴を説明できる。(客観性・自律性) 2.対象作品の時代背景、社会とのかわりについて十分に説明することができる。(客観性・自律性) 3.対象作品を理解するための着眼点を十分に提起することができる。(課題発見・解決力) 4.対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的手法によって十分に解決することができる。(課題発見・解決力)(リーダーシップ)	1.対象作品の表現における特徴を中等程度説明できる。(客観性・自律性) 2.対象作品の時代背景、社会とのかわりについて中等程度説明することができる。(客観性・自律性) 3.対象作品を理解するための着眼点を中等程度提起することができる。(課題発見・解決力) 4.対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的手法によって中等程度解決することができる。(課題発見・解決力)(リーダーシップ)
日本文学基礎研究BⅠ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	近代日本文学作品のうちから、対象を絞り精読することによって、その作品の特質や問題点を具体的に理解できるようになる。また、その作品が当時の、あるいは現在の社会においてもつ意義についても理解できるようになる。また、演習形式を取ることに、問題を提起し、客観的手法によって課題を解決する能力が身につくようになる。	1.対象作品の表現における特徴を説明できる。(客観性・自律性) 2.対象作品の時代背景、社会とのかわりについて説明することができる。(客観性・自律性) 3.対象作品を理解するための着眼点を提起することができる。(課題発見・解決力) 4.対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的手法によって解決することができる。(課題発見・解決力)(リーダーシップ)	1.対象作品の表現における特徴をある程度説明できる。(客観性・自律性) 2.対象作品の時代背景、社会とのかわりについてある程度説明することができる。(客観性・自律性) 3.対象作品を理解するための着眼点をある程度提起することができる。(課題発見・解決力) 4.対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的手法によってある程度解決することができる。(課題発見・解決力)(リーダーシップ)
日本文学基礎研究BⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 日本文学領域	1・2	2	近代日本文学作品のうちから、対象を絞り精読することによって、その作品の特質や問題点を具体的に十分に理解できるようになる。また、その作品が当時の、あるいは現在の社会においてもつ意義についても十分に理解できるようになる。また、演習形式を取ることに、問題を提起し、客観的手法によって課題を解決する能力が十分に身につくようになる。	1.対象作品の表現における特徴を説明できる。(客観性・自律性) 2.対象作品の時代背景、社会とのかわりについて十分に説明することができる。(客観性・自律性) 3.対象作品を理解するための着眼点を十分に提起することができる。(課題発見・解決力) 4.対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的手法によって十分に解決することができる。(課題発見・解決力)(リーダーシップ)	1.対象作品の表現における特徴を中等程度説明できる。(客観性・自律性) 2.対象作品の時代背景、社会とのかわりについて中等程度説明することができる。(客観性・自律性) 3.対象作品を理解するための着眼点を中等程度提起することができる。(課題発見・解決力) 4.対象作品を理解するための着眼点を課題とし、客観的手法によって中等程度解決することができる。(課題発見・解決力)(リーダーシップ)
論文英語ライティングⅠ	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	1	1	英語で修士論文を執筆するために必要な英語ライティング力をつけることをめざす。英語がもはや英米人の言語という狭い枠組みを超えて、世界共通語(lingua franca)としての言語という性格を帯びつつあることを受けて、自分が発表した修士論文の読者が世界のどの国・地域の人であるかもしれないという前提に立って、英語で論文を書く態度も大切である。	1.自信を持って英語で論文を書くことができる。(課題発見・解決力) 2.常に読者を意識して、読みやすい文章を英語で書くことができる。(客観性・自律性)(課題発見・解決力) 3.論文としてふさわしい書き方が十分にできる。(客観性・自律性)(リーダーシップ)	1.英語で論文を書くことができる。(課題発見・解決力) 2.読みやすい文章を英語で書くことができる。(客観性・自律性)(課題発見・解決力) 3.論文としてふさわしい書き方ができる。(客観性・自律性)(リーダーシップ)
論文英語ライティングⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	2	1	本科目の目的は、「論文英語ライティング演習Ⅰ」のそれと同一である。「論文英語ライティング演習Ⅰ」での学修を基盤としながら、論文執筆に必要なより高度な英語ライティング力を身につけることをめざす。	1.自信を持って、世界中の誰が読んでもその内容がわかるような英語で論文を書くことができる。(課題発見・解決力) 2.常に読者を意識して、自分の言いたいことが読者に伝わりやすい文章を英語で書くことができる。(客観性・自律性)(課題発見・解決力) 3.質の高い論文としてふさわしい書き方が十分にできる。(客観性・自律性)(リーダーシップ)	1.世界中の誰が読んでもその内容がわかるような英語で論文を書くことができる。(課題発見・解決力) 2.自分の言いたいことが読者に伝わりやすい文章を英語で書くことができる。(客観性・自律性)(課題発見・解決力) 3.質の高い論文としてふさわしい書き方ができる。(客観性・自律性)(リーダーシップ)
英語学研究AⅠ	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	1・2	2	日本では「英語学」という学問領域名はlinguistics(言語学)の訳語として用いられている。したがって、本科目の目的は、大きく2つある。(1)英語とはどのような言語であるのかということ考察すること。(2)人間の言語とはどのような特徴を持つのかということ考察すること。本科目では、英語および人間の言語の体系面に着目する。英語および人間の言語がどのように成り立っているのかということについて、深く研究することをめざす。	1.英語学・言語学の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。(客観性・自律性)(課題発見・解決力) 2.英語学・言語学の知識を十分に活用して、修士論文を執筆することができる。(客観性・自律性)(リーダーシップ)	1.英語学・言語学の幅広い事項について、他者に説明することができる。(客観性・自律性)(課題発見・解決力) 2.英語学・言語学の知識を活用して、修士論文を執筆することができる。(客観性・自律性)(リーダーシップ)
英語学研究AⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	1・2	2	日本では「英語学」という学問領域名はlinguistics(言語学)の訳語として用いられている。したがって、本科目の目的は、大きく2つある。(1)英語とはどのような言語であるのかということ考察すること。(2)人間の言語とはどのような特徴を持つのかということ考察すること。本科目では、英語および人間の言語の体系面に着目する。英語および人間の言語がどのように成り立っているのかということについて、「英語学研究AⅠ」の内容を踏まえて深く研究することをめざす。	1.英語学・言語学の幅広い事項について、他者に正確に説明することができる。(客観性・自律性)(課題発見・解決力) 2.英語学・言語学の知識を十分に活用して、独自の観点も織り込みながら修士論文を執筆することができる。(客観性・自律性)(リーダーシップ)	1.英語学・言語学の幅広い事項について、他者にある程度正確に説明することができる。(客観性・自律性)(課題発見・解決力) 2.英語学・言語学の知識を活用して、修士論文を執筆することができる。(客観性・自律性)(リーダーシップ)

科目名称	科目区分	記当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
英語文学批評研究AⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	1・2	2	英語で書かれた文学作品に対する批評の歴史のうち、英語文学の批評の成り立ちから、構造主義までについて、主要な批評を読み、研究する。文学批評のあり方や、個々の文学作品に対する批評史、作家と批評家の関係などについても「英語文学批評研究AⅠ」の内容を踏まえて研究する。	1. 英語で書かれた文学作品に対する批評の成り立ちから、構造主義までの文学批評の歴史について深く理解し、具体的な例をあげ、他者に説明することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. 英語で書かれた文学に関する初期の批評から、構造主義までの文学批評と文学作品の受容の変遷について、十分に理解している。(客観性・自律性) 3. 本科目で学修したことを、独自の観点も織り込みながら修士論文の執筆に十分に活用することができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)	1. 英語で書かれた文学作品に対する批評の成り立ちから、構造主義までの文学批評の歴史の概要を、他者に説明することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. 英語で書かれた文学に関する初期の批評から、構造主義までの文学批評と文学作品の受容の変遷について、理解している。(客観性・自律性) 3. 本科目で学修したことを、独自の観点もある程度織り込みながら修士論文の執筆に活用することができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)
英語文学批評研究BⅠ	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	1・2	2	英語で書かれた文学作品に対する批評の歴史のうち、構造主義の理解を踏まえ、ポスト構造主義およびそれ以降を研究する。文学批評のあり方や、文学批評のあり方や、個々の文学作品に対する批評史、作家と批評家の関係などについても研究する。	1. ポスト構造主義およびそれ以降の文学批評の歴史について深く理解し、具体的な例を挙げ、他者に正確に説明することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. ポスト構造主義およびそれ以降の文学批評と文学作品の受容の変遷について、十分に理解している。(客観性・自律性) 3. 本科目で学修したことを、修士論文の執筆に十分に活用することができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)	1. ポスト構造主義およびそれ以降の文学批評の歴史の概要を、他者に説明することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. ポスト構造主義およびそれ以降の文学批評と文学作品の受容の変遷について、理解している。(客観性・自律性) 3. 本科目で学修したことを、修士論文の執筆に活用することができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)
英語文学批評研究BⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 英文学領域	1・2	2	英語で書かれた文学作品に対する批評の歴史のうち、構造主義の理解を踏まえ、ポスト構造主義およびそれ以降を研究する。文学批評のあり方や、文学批評のあり方や、個々の文学作品に対する批評史、作家と批評家の関係などについても「英語文学批評研究BⅠ」の内容を踏まえて研究する。	1. ポスト構造主義およびそれ以降の文学批評の歴史について深く理解し、具体的な例を挙げ、他者に正確に説明することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. ポスト構造主義およびそれ以降の文学批評と文学作品の受容の変遷について、十分に理解している。(客観性・自律性) 3. 本科目で学修したことを、独自の観点も織り込みながら修士論文の執筆に十分に活用することができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)	1. ポスト構造主義およびそれ以降の文学批評の歴史の概要を、他者に説明することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. ポスト構造主義およびそれ以降の文学批評と文学作品の受容の変遷について、理解している。(客観性・自律性) 3. 本科目で学修したことを、独自の観点もある程度織り込みながら修士論文の執筆に活用することができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)
劇文学論Ⅰ	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	劇文学とは、おもに演劇の台本、つまり戯曲を文学としてとらえるものである。この授業では、そのとらえ方が具体的にどういふものなのか個々の演劇作品を取り上げ、その研究や評論、実際の上演舞台の映像なども参考にしなが、戯曲を読み、討論を行なっていくことによって明らかにしていく。	1. 演劇に関するテキストを主体的に解釈することができる。(客観性・自律性) 2. 演劇の上演の実態について多角的な視点から捉えることができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)	1. 演劇に関するテキストを正確に読むことができる。(客観性・自律性) 2. 演劇の上演の実態について議論ができ、資料にもとづいた捉え方ができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)
劇文学論Ⅱ	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	この授業では、劇文学論Ⅰの内容を踏まえ、戯曲のとらえ方が具体的にどういふものなのか個々の演劇作品を取り上げ、その研究や評論、実際の上演舞台の映像なども参考にしなが、戯曲を読み、討論を行なっていくことによってさらに明らかにしていく。	1. 演劇に関するテキストを主体的に、客観的資料に基づき解釈することができる。(客観性・自律性) 2. 演劇の上演の実態についてさらに多角的で独創的な視点から捉えることができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)	1. 演劇に関するテキストをある程度正確に読むことができる。(客観性・自律性) 2. 演劇の上演の実態について、資料にもとづいて捉え、議論ができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)
中・近世日本演劇研究Ⅰ	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	主として歌舞伎や人形浄瑠璃など近世演劇の作品を対象として、上演資料、劇評(評判記)などの一次資料も扱いながら、近世演劇研究をめぐる問題意識の持ち方や方法論を学ぶ。	1. 近世演劇やその作品について十分な知識を有し、自身の問題意識に繋げていくことができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. 近世演劇に関する一次資料を扱う一定の技術を身につけている。(課題発見・解決力) 3. 自身の持ち得た知識をもとに、自身の研究を構築していくことができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)	1. 近世演劇やその作品についてある程度の知識をもとに考えることができる。(客観性・自律性) 2. 近世演劇に関する一次資料について一通りの知識を身につけている。(客観性・自律性) 3. 与えられた課題について、先行研究や一次資料から得た情報を生いながら論じることができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)
中・近世日本演劇研究Ⅱ	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	この授業では中・近世日本演劇研究Ⅰの内容を踏まえ、主として歌舞伎や人形浄瑠璃など近世演劇の作品を対象とし、上演資料、劇評(評判記)などの一次資料も扱いながら、近世演劇研究をめぐる問題意識の持ち方や方法論をさらに深く学ぶ。	1. 近世演劇やその作品について十分な知識を活用し、自身の問題意識を深めていくことができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. 近世演劇に関する一次資料を扱う十分な技術を身につけている。(課題発見・解決力) 3. 自身の持ち得た知識をもとに、自身の研究を構築し、議論することができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)	1. 近世演劇やその作品についてある程度の知識をもとに考えることができる。(客観性・自律性) 2. 近世演劇に関する一次資料についてある程度の知識を身につけている。(客観性・自律性) 3. 与えられた課題について、先行研究や一次資料から得た情報を生い、自分なりに論じることができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)
近・現代日本演劇研究Ⅰ	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	近現代の日本演劇を研究する上で重要な知識を確認する内容とする。演劇史についての理解を深め、同時に具体的な舞台作品を取り上げて戯曲を読み、どのように上演され、同時代の評価も捉えて考察を加えていく。	1. 近現代の日本演劇史における重要なトピックについて正確な知識をもとに考えることができる。(客観性・自律性) 2. 舞台作品の上演についてより深く考察する基礎技能を得て議論することができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)	1. 近現代の日本演劇史における重要なトピックについてある程度の知識をもとに考えることができる。(客観性・自律性) 2. 舞台作品の上演について考察する基礎技能を得て議論することができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)
近・現代日本演劇研究Ⅱ	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	この授業では近・現代日本演劇研究Ⅰの内容を踏まえ、近現代の日本演劇を研究する上で重要な知識を確認し活用する内容とする。演劇史についての理解を深め、同時に具体的な舞台作品を取り上げて戯曲を読み、どのように上演され、同時代の評価も捉えて考察を加え、さらに日本演劇作品に対する理解を深める。	1. 近現代の日本演劇史における重要なトピックについて正確で広範な知識を基に考えることができる。(客観性・自律性) 2. 舞台作品の上演についてより深く考察する基礎技能を身につけて議論する。(課題発見・解決力) (リーダースhip)	1. 近現代の日本演劇史における重要なトピックについてある程度の知識を活用できる。(客観性・自律性) 2. 舞台作品の上演について考察する基礎技能を得て議論することができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)
英米演劇研究Ⅰ	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	主として初期近代イギリスの演劇テキストを、まずは、基本構造あるいは作品の内容(主人公、プロット、テーマ)、次に、修辭的構造あるいはパフォーマンスの形式を理解する。そのうえで、演劇テキストを、ジェンダー・セクシュアリティの視点、およびグローバルな視点から読み解いていく。	1. 英国の演劇を、テキストの基本的構造をおさえたうえで、グローバルなメディア文化における意味や価値を、歴史的に、解釈し理解することができるようになる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. 英国の演劇テキストを理解し、歴史や社会について広い視野を獲得し、議論することができる。(リーダースhip)	1. 英文で書かれたイギリスの演劇テキストの基本構造(主人公・プロット・テーマ)を分析し、ある程度理解することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. 演劇テキストを読むことで歴史や社会とのつながりを理解することができるようになる。(リーダースhip)
英米演劇研究Ⅱ	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	英米演劇研究Ⅰの内容を踏まえ、主として初期近代イギリスの演劇テキストを、基本構造あるいは作品の内容(主人公、プロット、テーマ)、次に、修辭的構造あるいはパフォーマンスの形式を理解する。そのうえで、演劇テキストを、ジェンダー・セクシュアリティの視点、およびグローバルな視点からさらに深く読み解いていく。	1. 英国の演劇を、テキストの基本的構造をおさえたうえで、グローバルなメディア文化における意味や価値を、歴史的に、解釈し理解することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. 英国の演劇テキストを理解し、歴史や社会について広い視野を得て多角的に議論することができる。(リーダースhip)	1. 英文で書かれたイギリスの演劇テキストの基本構造(主人公・プロット・テーマ)を分析し、ひととおり理解することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. 演劇テキストを読むことで歴史や社会とのつながりがある程度理解することができるようになる。(リーダースhip)
ヨーロッパ演劇研究Ⅰ	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	近現代の西洋演劇の理論について英語資料を読み、それぞれの内容を理解していく。そのうえで、西洋演劇にかかわる、さまざまな情報を収集・整理して、演劇理論のあり方について議論を重ねていく。	1. 英語で書かれた文献を十分に読みこなすことができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. 演劇理論の総体を理解し、戯曲や上演について具体的に論じることができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)	1. 英語で書かれた文献をある程度読むことができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2. 演劇理論の総体を基本的に理解し、戯曲や上演について論じることができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)

科目名称	科目区分	記当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
ヨーロッパ演劇研究II	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	ヨーロッパ演劇研究Iの内容を踏まえ、近現代の西洋演劇の理論について英語資料を読み、それぞれの内容をさらに理解していく。そのうえで、西洋演劇にかかわる、さまざまな情報を収集・整理して、演劇理論のあり方についてより深い議論を重ねてゆく。	1.英語で書かれた文献を、多く、かつ十分に読みこなすことができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2.演劇理論の総体を深く理解し、戯曲や上演についてより具体的に論じることができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)	1.英語で書かれた文献を一通り読むことができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2.演劇理論の総体をある程度理解し、戯曲や上演について自分なりに論じることができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)
演劇学文献研究A I	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	主として歌舞伎や人形浄瑠璃など近世演劇に関する文献や資料を読む。先行研究から研究方法を学ぶとともに、近世演劇関係の一次資料を読む技術も養う。そのうえで、資料から得た情報を整理して、論を構築していく力をつける。	1.近世演劇に関する先行研究を理解し、自身の問題意識に繋げていくことができる(客観性・自律性) (課題発見・解決力)。 2.近世演劇関連の一次資料を使いこなすことができる(課題発見・解決力)。 3.先行研究や一次資料から得た情報を組み立てて、自身の研究を構築し議論することができる(課題発見・解決力) (リーダースhip)。	1.近世演劇に関する先行研究を読むことができる(客観性・自律性)。 2.近世演劇関連の一次資料の扱い方についての基礎が身につけている(課題発見・解決力)。 3.与えられた課題について、先行研究や一次資料から得た情報を使いながら論じることができる(課題発見・解決力) (リーダースhip)。
演劇学文献研究A II	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	演劇学文献研究AIの内容を踏まえ、主として歌舞伎や人形浄瑠璃など近世演劇に関する文献や資料を読む。先行研究から研究方法を学ぶとともに、近世演劇関係の一次資料を読む技術も養う。そのうえで、資料から得た情報を整理して、論を構築していく力をつける。	1.近世演劇に関する先行研究を理解し、自身の問題意識に繋げて論じることができる(客観性・自律性) (課題発見・解決力)。 2.近世演劇関連の一次資料を使いこなすことができる(課題発見・解決力)。 3.先行研究や一次資料から得た情報を適切に組み立てて、自身の研究をより明確に構築し議論することができる(課題発見・解決力) (リーダースhip)。	1.近世演劇に関する先行研究をある程度読むことができる(客観性・自律性)。 2.近世演劇関連の一次資料の扱い方についての基礎が一通り身につけている(課題発見・解決力)。 3.自らのテーマについて、先行研究や一次資料から得た情報を使い議論することができる(課題発見・解決力) (リーダースhip)。
演劇学文献研究B I	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	近現代の日本演劇を研究するために必要な基礎研究の方法を身につける。資料のデジタル化やデータベースの整備が急速に進む一方で、紙媒体でしか確認できないものも多い。双方を使って演劇作品の内容や上演情報の検証をできるようになることをめざす。	1.近現代の日本演劇に関する資料にどのようなものがあるか理解し、的確に利用することができる(客観性・自律性) (課題発見・解決力)。 2.自らのテーマを明らかにするために必要な資料を収集、分析し、考察した内容をまとめ上げることができるようになる(課題発見・解決力) (リーダースhip)。	1.近現代の日本演劇に関する資料にどのようなものがあるか理解し、ある程度利用することができる(客観性・自律性) (課題発見・解決力)。 2.自らのテーマを明らかにするために必要な資料を収集、分析し、考察した内容をある程度まとめ上げることができるようになる(課題発見・解決力) (リーダースhip)。
演劇学文献研究B II	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	演劇学文献研究BIの内容を踏まえ、近現代の日本演劇を研究するために必要な基礎研究の方法をさらに広く獲得する。資料のデジタル化やデータベースの整備が急速に進む一方で、紙媒体でしか確認できないものも多い。双方を使って演劇作品の内容や上演情報の検証をし、論じることができるようになることをめざす。	1.近現代の日本演劇に関する資料にどのようなものがあるかより広く理解し、的確に利用することができる(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2.自らのテーマを明らかにするために必要な資料を収集、分析し、考察した内容に立脚した議論ができるようになる(課題発見・解決力) (リーダースhip)。	1.近現代の日本演劇に関する資料にどのようなものがあるか理解し、ある程度利用することができる(客観性・自律性) (課題発見・解決力)。 2.自らのテーマを明らかにするために必要な資料を収集、分析し、考察した内容に立脚して自分なりに論じることができるようになる(課題発見・解決力) (リーダースhip)。
映画学研究 I	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	様々な映画を鑑賞しながら、その映像の特色を捉え、製作者の意図や歴史的意義を捉える。文献講読により、映画を論ずるための多角的視点や術語を身につける。	1. 映画史について一般に求められるだけの知識を得て、個々の映画を映画史的文脈で捉えることができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力)。 2. 映画学の基本的観点を踏まえ、個々の映画を論じることができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力)。 3. 映画学の文献についての知識があり、自らアプローチすることができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)。	1. 映画史について基礎的知識を得て、ある程度個々の映画をある程度映画史的文脈で捉えることができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力)。 2. 映画学の基本的観点を踏まえ、個々の映画を見ることができる。(客観性・自律性)。 3. 映画学の文献に自らアプローチすることができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)。
映画学研究 II	文芸学研究科 文芸学専攻 演劇学領域	1・2	2	映画学研究Iの内容を踏まえ、様々な映画を鑑賞しながら、その映像の特色を捉え、製作者の意図や歴史的意義を深く捉える。文献講読により、映画を論ずるための多角的視点やより多くの術語を身につける。	1. 映画史について十分な知識を得て、個々の映画を映画史的文脈で捉えることができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力)。 2. 映画学の基本的観点を踏まえ、個々の映画を具体的に論じることができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力)。 3. 映画学の文献についての知識があり、自らアプローチし、議論することができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)。	1. 映画史について基礎的知識を得て、ある程度個々の映画を映画史的な知識をもち、説明することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力)。 2. 映画学の基本的観点をひとり踏まえ、個々の映画を見ることができる。(客観性・自律性)。 3. 映画学の文献に自らアプローチし、自分なりに議論することができる。(課題発見・解決力) (リーダースhip)。
芸術論基礎研究 A I	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	美術史学の方法論について学び、研究の実践に役立てるばかりでなく、イメージの性質、その生成と受容、機能、芸術という営み自体について理解を深める。方法的な考察を通して、美術のみならず、文学・芸術・文化の研究全般に寄与する基本的な視座を身につける。	1.美術史学の方法論について相応に知識をもち、詳細に説明することができる。(客観性・自律性) 2.イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、知識をもち、詳細に説明することができる。(客観性・自律性) 3.方法論を応用して高度な研究を行い、研究発表、レポートを作成することができる。(課題発見・解決力) 4.文学・芸術・文化の研究全般に寄与する高度な視座を研究発表、レポートに反映させることができる。(リーダースhip)	1.美術史学の方法論について基本的な知識を持ち、説明することができる。(客観性・自律性) 2.イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、基本的な知識をもち、説明することができる。(客観性・自律性) 3.方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。(課題発見・解決力) 4.文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座をもっている。(リーダースhip)
芸術論基礎研究 A II	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	美術史学の方法論について学び、研究の実践に役立てるばかりでなく、イメージの性質、その生成と受容、機能、芸術という営み自体についてさらに理解を深める。方法的な考察を通して、美術のみならず、文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座を身につける。	1.美術史学の方法論について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。(客観性・自律性) 2.イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、十分な知識をもち、詳細に説明することができる。(客観性・自律性) 3.方法論を応用して高度な研究を行い、研究発表、レポートを作成することができる。(課題発見・解決力) 4.文学・芸術・文化の研究全般に寄与する高度な視座を研究発表、レポートに反映させることができる。(リーダースhip)	1.美術史学の方法論について相応に知識を持ち、説明することができる。(客観性・自律性) 2.イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、基本的な知識をもち、説明することができる。(客観性・自律性) 3.方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。(課題発見・解決力) 4.文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座をもっている。(リーダースhip)
芸術論基礎研究 B I	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	美術史学の方法論について広く学び、研究の実践に役立てるばかりでなく、イメージの性質、その生成と受容、機能、芸術という営み自体についてさらに理解を深める。方法的な考察を通して、美術のみならず、文学・芸術・文化の研究全般に寄与する基本的な視座を身につける。	1.美術史学の方法論諸般について相応に知識をもち、詳細に説明することができる。(客観性・自律性) 2.イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、知識をもち、詳細に説明することができる。(客観性・自律性) 3.方法論を応用して高度な研究を行い、研究発表、レポートを作成することができる。(課題発見・解決力) 4.文学・芸術・文化の研究全般に寄与する高度な視座を研究発表、レポートに反映させることができる。(リーダースhip)	1.美術史学の方法論諸般について基本的な知識を持ち、説明することができる。(客観性・自律性) 2.イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、基本的な知識をもち、説明することができる。(客観性・自律性) 3.方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。(課題発見・解決力) 4.文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座をもっている。(リーダースhip)
芸術論基礎研究 B II	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	美術史学の方法論について広く学び、研究の実践に役立てるばかりでなく、イメージの性質、その生成と受容、機能、芸術という営み自体についてさらに理解を深める。方法的な考察を通して、美術のみならず、文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座を身につける。	1.美術史学の方法論諸般について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。(客観性・自律性) 2.イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、十分な知識をもち、詳細に説明することができる。(客観性・自律性) 3.方法論を応用して高度な研究を行い、研究発表、レポートを作成することができる。(課題発見・解決力) 4.文学・芸術・文化の研究全般に寄与する高度な視座を研究発表、レポートに反映させることができる。(リーダースhip)	1.美術史学の方法論諸般について相応に知識を持ち、説明することができる。(客観性・自律性) 2.イメージの性質。聖性と受容、機能、芸術自体について、基本的な知識をもち、説明することができる。(客観性・自律性) 3.方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。(課題発見・解決力) 4.文学・芸術・文化の研究全般に寄与する視座をもっている。(リーダースhip)

科目名称	科目区分	記当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
比較文化研究BⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	文化に関する基本理論について多角的に捉え、フランス語圏の特定の時代、特定の地域、特定のジャンル、あるいは特定の文学者、詩人、芸術家を対象として、その様式の展開、背景となる文芸潮流、表現内容、意味作用、異なるジャンル間の影響関係、社会的機能などが作品にどのように作用しているか、作品がどのように受容されているかについて、方法論を踏まえてさらに検討する。	1. フランス語の文献を正確に読解できる。(客観性・自律性) 2. フランス語のテキストの文脈を理解し、日本語で正確に説明できる。(客観性・自律性) 3. フランス語圏の文化・芸術を、自身の文化とも比較しながら、正確に関係づけることができる。(課題発見・解決力) 4. 文学・芸術の比較において、方法論に則り、多面的・総合的に系統立てることができる。(課題発見・解決力) (リーダークシップ)	1. フランス語の文献をおおまかに読解できる。(客観性・自律性) 2. フランス語のテキストの文脈を部分的に理解し、日本語で説明できる。(客観性・自律性) 3. フランス語圏の文化・芸術を、自身の文化とも比較しながら、関係づけることができる。(課題発見・解決力) 4. 文学・芸術の比較において、方法論を意識しつつ相応に系統立てることができる。(課題発見・解決力) (リーダークシップ)
歴史文化研究AⅠ	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	この授業では、単記物語等の物語文学を中心に絵巻物・屏風絵などの絵画史料を補助素材として、日本の前近代社会の文化とその諸様相を歴史学の方法論を用いて教授していく。必要に応じて、原本の写真版のほか、関連資料も参照して読みすすめていく。	1.日本の前近代社会と、それに関連する史料についての深い知識を習得している。(客観性・自律性) 2.日本の前近代社会の史料・歴史書を正確に読解する能力が身についている。(課題発見・解決力) 3.日本の前近代社会の社会変動と文学・芸術の関係について理解している。(客観性・自律性) 4.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を積極的に行うことができる。(課題発見・解決力) 5.文学・芸術・歴史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨んでいる。(関心・意欲・態度) (リーダークシップ)	1.日本の前近代社会と、それに関連する史料についての概要を習得している。(客観性・自律性) 2.日本の前近代社会の史料・歴史書を一通り読解する能力が身についている。(課題発見・解決力) 3.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。(課題発見・解決力) 4.文学・芸術・歴史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に臨んでいる。(関心・意欲・態度) (リーダークシップ)
歴史文化研究AⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	この授業では、単記物語等の物語文学を中心に絵巻物・屏風絵などの絵画史料を補助素材として、日本の前近代社会の文化とその諸様相を歴史学の方法論を用いてさらに教授していく。必要に応じて、原本の写真版のほか、関連資料も参照して読みすすめていく。	1.日本の前近代社会と、それに関連する史料についての高度で深い知識を習得している。(客観性・自律性) 2.日本の前近代社会の史料・歴史書を正確に読解する能力が身についている。(課題発見・解決力) 3.日本の前近代社会の社会変動と文学・芸術の関係について理解している。(客観性・自律性) 4.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を積極的に行うことができる。(課題発見・解決力) 5.文学・芸術・歴史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨んでいる。(関心・意欲・態度) (リーダークシップ)	1.日本の前近代社会と、それに関連する史料についての概要を相応に習得している。(客観性・自律性) 2.日本の前近代社会の史料・歴史書を一通り読解する能力が身についている。(課題発見・解決力) 3.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。(課題発見・解決力) 4.文学・芸術・歴史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に臨んでいる。(関心・意欲・態度) (リーダークシップ)
歴史文化研究BⅠ	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	この授業では、絵巻物・屏風絵等の絵画史料を中心に単記物語等の物語文学を補助教材として、日本等の前近代社会の文化とその諸様相を歴史学の方法論を用いてさらに教授していく。必要に応じて、原本の写真版のほか、関連資料も参照して読みすすめていく。	1.日本等の前近代社会と、それに関連する史料についての深い知識を習得している。(客観性・自律性) 2.日本等の前近代社会の史料・歴史書を正確に読解する能力が身についている。(課題発見・解決力) 3.日本等の前近代社会の社会変動と文学・芸術の関係について理解している。(客観性・自律性) 4.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を積極的に行うことができる。(課題発見・解決力) 5.文学・芸術・歴史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨んでいる。(関心・意欲・態度) (リーダークシップ)	1.日本等の前近代社会と、それに関連する史料についての概要を習得している。(客観性・自律性) 2.日本等の前近代社会の史料・歴史書を一通り読解する能力が身についている。(課題発見・解決力) 3.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。(課題発見・解決力) 4.文学・芸術・歴史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に臨んでいる。(関心・意欲・態度) (リーダークシップ)
歴史文化研究BⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	この授業では、単記物語等の物語文学を中心に絵巻物・屏風絵などの絵画史料を補助素材として、日本等の前近代社会の文化とその諸様相を歴史学の方法論を用いてさらに教授していく。必要に応じて、原本の写真版のほか、関連資料も参照して読みすすめていく。	1.日本等の前近代社会と、それに関連する史料についての高度で深い知識を習得している。(客観性・自律性) 2.日本等の前近代社会の史料・歴史書を正確に読解する能力が身についている。(課題発見・解決力) 3.日本等の前近代社会の社会変動と文学・芸術の関係について理解している。(客観性・自律性) 4.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を積極的に行うことができる。(課題発見・解決力) 5.文学・芸術・歴史の研究全般に対する高い関心・意欲をもって授業に積極的に臨んでいる。(関心・意欲・態度) (リーダークシップ)	1.日本等の前近代社会と、それに関連する史料についての概要を相応に習得している。(客観性・自律性) 2.日本等の前近代社会の史料・歴史書を一通り読解する能力が身についている。(課題発見・解決力) 3.歴史学の方法論を応用して研究を行い、研究発表、レポート作成を行うことができる。(課題発見・解決力) 4.文学・芸術・歴史の研究全般に対する関心・意欲をもって授業に臨んでいる。(関心・意欲・態度) (リーダークシップ)
現代文化研究AⅠ	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	現代におけるさまざまな文化事象について、個別事例を用いつつ、俯瞰的な観点を涵養する。	1.現代の文化事象について説明できるようになる(客観性・自律性)。 2.みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる(課題発見・解決力)。 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる(リーダークシップ)。	1.現代の文化事象について具体例を挙げられる(客観性・自律性)。 2.みずから問いを立て、自分なりに考察し、それを表現できるようになる(課題発見・解決力)。 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるためにある程度適切に応用することができるようになる(リーダークシップ)。
現代文化研究AⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	現代におけるさまざまな文化事象について、個別事例を用いつつ、さらに俯瞰的な観点を涵養する。	1.現代の文化事象について詳細に説明できるようになる(客観性・自律性)。 2.みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる(課題発見・解決力)。 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる(リーダークシップ)。	1.現代の文化事象について相応に具体例を挙げられる(客観性・自律性)。 2.みずから問いを立て、自分なりに考察し、それを表現できるようになる(課題発見・解決力)。 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるためにある程度適切に応用することができるようになる(リーダークシップ)。
現代文化研究BⅠ	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	現代におけるさまざまな文化事象について、俯瞰的な観点から個別事例を考察する。	1.現代の文化事象について俯瞰的な観点から説明できるようになる(客観性・自律性)。 2.みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる(課題発見・解決力)。 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる(リーダークシップ)。	1.現代の文化事象について俯瞰的な観点から具体例を挙げられる(客観性・自律性)。 2.みずから問いを立て、自分なりに考察し、それを表現できるようになる(課題発見・解決力)。 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるためにある程度適切に応用することができるようになる(リーダークシップ)。
現代文化研究BⅡ	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	現代におけるさまざまな文化事象について、俯瞰的な観点からさらに個別事例を考察する。	1.現代の文化事象について俯瞰的な観点から詳細に説明できるようになる(客観性・自律性)。 2.みずから問いを立て、深く考察し、それを表現できるようになる(課題発見・解決力)。 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるために適切に応用することができるようになる(リーダークシップ)。	1.現代の文化事象について俯瞰的な観点から相応に具体例を挙げられる(客観性・自律性)。 2.みずから問いを立て、自分なりに考察し、それを表現できるようになる(課題発見・解決力)。 3.この授業で得た知識・考え方を、他分野への興味や理解を深めるためにある程度適切に応用することができるようになる(リーダークシップ)。
文芸とメディア研究AⅠ	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	文学・芸術を柱として高度な研究を志す者にとって、得られた知を客観性をもって表現し伝達することは責務である。研究を客観的に進める方法は調査、実験、観察、文書の内容分析など各種ある。ここでは、社会調査法を手掛かりに研究方法を紹介するとともに、各自の専門性に照らし合わせ研究計画及びその方法について議論し、自分とは異なった研究方法を理解するとともに、各自の研究手法の決定あるいは検証の場とする。	1.自身の研究計画を明確に他者に伝えられる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2.自身とは異なった研究方法を理解し批評できる。(客観性・自律性) (リーダークシップ)。 3.文学、芸術を柱とする多様な研究方法を理解し説明できる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 4.研究成果を客観的に表現する方路を立てられる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力)	1.自身の研究計画を明確にする。(客観性・自律性) (関心・意欲・態度) 2.自身とは異なった研究方法を理解できる。(客観性・自律性) (リーダークシップ)。 3.文学、芸術を柱とする多様な研究方法を理解する。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 4.研究成果を客観的にまとめる法術を示せる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力)

科目名称	科目区分	記当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
文芸とメディア研究 AII	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	文学・芸術を柱として高度な研究を志す者にとって、得られた知を客観性をもって表現し伝達することは責務である。研究を客観的に進める方法は調査、実験、観察、文書の内容分析など各種ある。ここでは、社会調査法を手掛かりに研究方法を紹介するとともに、各自の専門性に照らし合わせ研究計画及びその方法について議論し、自分とは異なった研究方法をさらに理解するとともに、各自の研究手法の決定あるいは検証の場とする。	1.自身の研究計画を明確に説得力をもって他者に伝えられる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 2.自身とは異なった研究方法を理解し批評できる。(客観性・自律性) (リーダーシップ)。 3.文学、芸術を柱とする多様な研究方法を理解し説明できる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 4.研究成果を客観的に表現する方略を立てられる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力)	1.自身の研究計画を明確にする。(客観性・自律性) (関心・意欲・態度) 2.自身とは異なった研究方法を相応に理解できる。(客観性・自律性) (リーダーシップ)。 3.文学、芸術を柱とする多様な研究方法を理解する。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 4.研究成果を客観的にまとめる術を示せる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力)
文芸とメディア研究 BI	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	文学・芸術を柱として高度な研究を志す者にとって、その成果を伝達することを通じて、文化の次なる担い手の豊かな人間性を形成することはいわば責務である。ここでは、そのための営みである教育を「知の総合伝達メディア」ととらえ、各自の専門研究成果をコンテンツとしてその伝達実践力を高めるための討議の場とする。	1.知の総合伝達メディアとしての教育について確かな認識をもつ。(客観性・自律性) (関心・意欲・態度) 2.専攻分野における自らの研究テーマの位置づけ、意義づけをする。(課題発見・解決力) (リーダーシップ)。 3.研究成果を他者に伝達することを研究者の責務として自覚する。(関心・意欲・態度) 4.研究の進捗状況報告と質疑応答を通して、クリティカルマインドを鍛える。(課題発見・解決力) 5.文学、芸術分野について学ぶとする者のニーズに応じられる的確な指導能力を修練する。(課題発見・解決力) 6.文学、芸術、メディアの専門分野についての継続研究に向う意欲をもつ。(リーダーシップ)。	1.知の総合伝達メディアとしての教育について理解する。(客観性・自律性) (関心・意欲・態度) 2.研究テーマを紹介し、テーマ設定の趣旨を説明する。(課題発見・解決力) (課題発見・解決力) 3.研究成果を他者(次なる文化の担い手)に伝達することの意義を考える。(関心・意欲・態度) 4.研究の進捗状況を報告し合い、クリティカルマインドを身につける。(課題発見・解決力) 5.知の総合伝達メディアとしての教育に主体的に関わる態度をとることができる。(リーダーシップ)。
文芸とメディア研究 BII	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	文学・芸術を柱として高度な研究を志す者にとって、その成果を伝達することを通じて、文化の次なる担い手の豊かな人間性を形成することはいわば責務である。ここでは、そのための営みである教育を「知の総合伝達メディア」ととらえ、各自の専門研究成果をコンテンツとしてその伝達実践力をさらに高めるための討議の場とする。	1.知の総合伝達メディアとしての教育について高度で確かな認識をもつ。(客観性・自律性) (関心・意欲・態度) 2.専攻分野における自らの研究テーマの位置づけ、意義づけをする。(課題発見・解決力) (リーダーシップ)。 3.研究成果を他者に伝達することを研究者の責務として自覚する。(関心・意欲・態度) 4.研究の進捗状況報告と質疑応答を通して、クリティカルマインドを鍛える。(課題発見・解決力) 5.文学、芸術分野について学ぶとする者のニーズに応じられる的確な指導能力を修練する。(課題発見・解決力) 6.文学、芸術、メディアの専門分野についての継続研究に向う意欲をもつ。(リーダーシップ)。	1.知の総合伝達メディアとしての教育について相応に理解する。(客観性・自律性) (関心・意欲・態度) 2.研究テーマを紹介し、テーマ設定の趣旨を説明する。(課題発見・解決力) (課題発見・解決力) 3.研究成果を他者(次なる文化の担い手)に伝達することの意義を考える。(関心・意欲・態度) 4.研究の進捗状況を報告し合い、クリティカルマインドを身につける。(課題発見・解決力) 5.知の総合伝達メディアとしての教育に主体的に関わる態度をとることができる。(リーダーシップ)。
文化とメディア研究 AI	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	文化やメディアを学ぶことは、人々の営みやコミュニケーションの在り方に目を向け、その背景や歴史について理解することである。文化とメディア・コミュニケーションに関連する文献や資料を読解し、分析枠組みや方法論を身につけ、理論的研究基盤を確立を目指す。	1.文化とメディア・コミュニケーションに関する理論や方法論について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。(客観性・自律性) 2.文化とメディア・コミュニケーションに関する先行研究を理解し、かつコンテクストを踏まえたうえで、批判的に読解できる。(課題発見・解決力) 3.先行研究やテキストから習得した理論や分析枠組みを、自らの研究に適切に応用することができる(リーダーシップ)。	1.文化とメディア・コミュニケーションに関する理論や方法論について基礎的な知識をもち、説明することができる。(客観性・自律性) 2.文化とメディア・コミュニケーションに関する先行研究を理解し、批判的に読解できる。(課題発見・解決力) 3.先行研究やテキストから習得した理論や分析枠組みを、自らの研究にある程度反映することができる(リーダーシップ)。
文化とメディア研究 AII	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	文化やメディアを学ぶことは、人々の営みやコミュニケーションの在り方に目を向け、その背景や歴史について理解することである。文化とメディア・コミュニケーションに関連する文献や資料を読解し、分析枠組みや方法論を身につけ、理論的研究基盤を確立する。	1.文化とメディア・コミュニケーションに関する理論や方法論について高度で十分な知識をもち、詳細に説明することができる。(客観性・自律性) 2.文化とメディア・コミュニケーションに関する先行研究を理解し、かつコンテクストを踏まえたうえで、批判的に読解できる。(課題発見・解決力) 3.先行研究やテキストから習得した理論や分析枠組みを、自らの研究に適切に応用することができる(リーダーシップ)。	1.文化とメディア・コミュニケーションに関する理論や方法論について基礎的な知識をもち、相応に説明することができる。(客観性・自律性) 2.文化とメディア・コミュニケーションに関する先行研究を理解し、批判的に読解できる。(課題発見・解決力) 3.先行研究やテキストから習得した理論や分析枠組みを、自らの研究にある程度反映することができる(リーダーシップ)。
文化とメディア研究 BI	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	文化とメディア・コミュニケーションに関連する視聴覚資料(映像作品、CM、データベースやアーカイブなど)を用いながら、実践的にメディアと文化を解釈するスキル身につける。国内外や時代の異なる文化・メディアとの比較を通じて、その背景にある、重層的かつ多様な価値観についての理解を深める。	1.文化とメディア・コミュニケーションに関する理論や分析枠組みを援用しながら、適切に資料を分析・考察・解釈することができる。(課題発見・解決力) 2.資料調査や映像分析を専門的な知識に基づいて実践できる。(客観性・自律性) 3.多様な価値観や異文化に対する寛容な思考態度を十分に備え、分析・考察することができる。(課題発見・解決力) 4.視聴覚資料の分析を通じて、実践的に習得した理論や分析枠組みを、自らの研究に適切に応用することができる(リーダーシップ)。 5.文化的・歴史的背景を十分理解したうえで、自らのテーマを当該分野に寄与すべく、研究発表・レポートに反映させることができる。(客観性・自律性)	1.文化とメディア・コミュニケーションに関する基礎的な理論や分析枠組みを理解し、資料を分析・考察・解釈することができる。(課題発見・解決力) 2.資料調査や映像分析をある程度専門的な知識に基づいて実践できる。(客観性・自律性) 3.多様な価値観や異文化に対する寛容な思考態度を備え、分析・考察することができる。(課題発見・解決力) 4.視聴覚資料の分析を通じて習得した理論や分析枠組みを、自らの研究のなかである程度実践することができる(リーダーシップ)。 5.文化的・歴史的背景を理解したうえで、自らのテーマを当該分野に寄与すべく、研究発表・レポートに反映させることができる。(客観性・自律性)
文化とメディア研究 BII	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	文化とメディア・コミュニケーションに関連する視聴覚資料(映像作品、CM、データベースやアーカイブなど)を用いながら、実践的にメディアと文化を解釈するスキル身につける。国内外や時代の異なる文化・メディアとの比較を通じて、その背景にある、重層的かつ多様な価値観についての理解をさらに深める。	1.文化とメディア・コミュニケーションに関する理論や分析枠組みを援用しながら、適切に資料を分析・考察・解釈することができる。(課題発見・解決力) 2.資料調査や映像分析を専門的な知識に基づいて実践できる。(客観性・自律性) 3.多様な価値観や異文化に対する寛容な思考態度を十分に備え、適切に分析・考察することができる。(課題発見・解決力) 4.視聴覚資料の分析を通じて、実践的に習得した理論や分析枠組みを、自らの研究に適切に応用することができる(リーダーシップ)。 5.文化的・歴史的背景を十分理解したうえで、自らのテーマを当該分野に寄与すべく、研究発表・レポートに反映させることができる。(客観性・自律性)	1.文化とメディア・コミュニケーションに関する基礎的な理論や分析枠組みを理解し、資料を分析・考察・解釈することができる。(課題発見・解決力) 2.資料調査や映像分析をある程度専門的な知識に基づいて実践できる。(客観性・自律性) 3.多様な価値観や異文化に対する寛容な思考態度を備え、相応に分析・考察することができる。(課題発見・解決力) 4.視聴覚資料の分析を通じて習得した理論や分析枠組みを、自らの研究のなかである程度実践することができる(リーダーシップ)。 5.文化的・歴史的背景を理解したうえで、自らのテーマを当該分野に寄与すべく、研究発表・レポートに反映させることができる。(客観性・自律性)
文芸学特講A	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	フランス語で書かれた文学・芸術作品(小説、詩、戯曲、舞台芸術、エッセー、あるいは批評など)を読解する。文化背景、歴史、社会的事象とその表象との関係を考察する。	1.フランスの文学作品をよく理解し、深く味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。(客観性・自律性) 2.文学作品の主題を自らの経験にひきつけて適切に意味づけることができる。(リーダーシップ) 3.社会的事象とその表象との関係を十分に理解し、作品を分析することができる。(課題発見・解決力)	1.フランスの文学作品を大まかに理解し、味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。(客観性・自律性) 2.文学作品の主題を自らの経験にひきつけて自分なりに意味づけることができる。(リーダーシップ)。 3.社会的事象とその表象との関係の概略を理解し、作品を分析することができる。(課題発見・解決力)
文芸学特講B	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	フランス語で書かれた文学・芸術作品(小説、詩、戯曲、舞台芸術、エッセー、あるいは批評など)を読解する。文化背景、歴史、社会的事象とその表象との関係を多面的に考察する。	1.フランス語圏の文学作品をよく理解し、深く味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。(客観性・自律性) 2.文学作品の主題を自らの経験にひきつけて適切に意味づけることができる。(リーダーシップ) 3.文化的背景とその表象との関係を十分に理解し、多面的に作品を分析することができる。(課題発見・解決力)	1.フランス語圏の文学作品を大まかに理解し、味わうことを可能とする鑑賞能力を身につける。(客観性・自律性) 2.文学作品の主題を自らの経験にひきつけて自分なりに意味づけることができる。(リーダーシップ) 3.文化的背景とその表象との関係の概略を理解し、多面的に作品を分析することができる。(課題発見・解決力)

科目名称	科目区分	配当年次	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
文芸学特講C	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	外国語の基本的文献を用いて、欧米における書誌学についての知識を得る。その上で実際に書誌の活用の可能性を模索する。	1. 書誌に関する資料を正確に読解できる。(客観性・自律性) 2. 書誌の活用方法を日本語で正確に説明できる。(客観性・自律性) 3. 実際にモデルとなる文献リストを作成することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 4. 書誌の活用方法を複数提示することができる。(課題発見・解決力) (リーダーシップ)	1. 書誌に関する資料を読解できる。(客観性・自律性) 2. 書誌の活用方法を日本語で説明できる。(客観性・自律性) 3. 実際にモデルとなる文献リストの下書きを作成することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 4. 書誌の活用方法を項目提示することができる。(課題発見・解決力) (リーダーシップ)
文芸学特講D	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	外国語の基本的文献を用いて、欧米における書誌学についての知識を得る。その上で実際に書誌の活用の可能性を多面的に模索する。	1. 書誌に関する資料を正確に読解できる。(客観性・自律性) 2. 書誌の活用方法を日本語で正確にかつ多面的に説明できる。(客観性・自律性) 3. 実際にモデルとなる文献リストを作成することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 4. 書誌の活用方法を複数提示することができる。(課題発見・解決力) (リーダーシップ)	1. 書誌に関する資料を読解できる。(客観性・自律性) 2. 書誌の活用方法を日本語で多面的に説明できる。(客観性・自律性) 3. 実際にモデルとなる文献リストの下書きを作成することができる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 4. 書誌の活用方法を項目提示することができる。(課題発見・解決力) (リーダーシップ)
文芸学特講E	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	世界各地の文学と文化は、それぞれの地域に独自の要素と共通する要素を背景にして誕生し、発展してきた。また、個々に展開するのではなく、お互いに影響し合って発展してきた。こうした背景を理解しつつ、文化の在り方に力点を置いて幅広い文学作品を読み、鑑賞する。	1.文学・芸術作品の表現を、時代や地域の背景、文化の在り方を踏まえた上で、正確に理解することができる。(客観性・自律性) 2.中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを積極的に探し、比較することができる。(リーダーシップ) 3.扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で独創的な考察を展開することができる。(課題発見・解決力)	1.文学・芸術作品の表現を、時代や地域の背景、文化の在り方を踏まえた上で、理解することができる。(客観性・自律性) 2.中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを探し、比較することができる。(リーダーシップ) 3.扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で自分なりに考察を展開することができる。(課題発見・解決力)
文芸学特講F	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	世界各地の文学と文化は、それぞれの地域に独自の要素と共通する要素を背景にして誕生し、発展してきた。また、個々に展開するのではなく、お互いに影響し合って発展してきた。こうした背景を理解しつつ、文学・芸術のかたちに力点を置いて幅広い文学作品を多面的に読解し、鑑賞する。	1.文学・芸術作品のかたちを、時代や地域の背景を踏まえた上で、正確にかつ多面的に理解することができる。(客観性・自律性) 2.中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを積極的に探し、比較することができる。(リーダーシップ) 3.扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で独創的な考察を展開することができる。(課題発見・解決力)	1.文学・芸術作品のかたちを、時代や地域の背景を踏まえた上で、多面的に理解することができる。(客観性・自律性) 2.中心テーマとなる作品に関係している作品・類似している作品などを探し、比較することができる。(リーダーシップ) 3.扱う作品についての批評的なテキストを読み、その内容を比較検討した上で自分なりに考察を展開することができる。(課題発見・解決力)
文芸学特講G	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	美術作品を通じて、テキストとイメージが相互に補完し合って成立する文化について理解する。古代から近世の美術作品の銘文・詞書・資料の翻刻や現代語訳、また画面の様式分析を行う能力を身に付ける。その上で、美術制作の社会的な意義について、信仰や政治などとの関係性から理解を深める。	1.古代から近世に至る美術の主要作品について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。(客観性・自律性) 2.くずし字や漢文が十分読めるようになり、翻刻や現代語訳ができる。(課題発見・解決力) 3.学術書の構造を十分に理解し、自ら主体的に読みこなせるようになる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 4.美術制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から考察する視点を十分獲得している。(リーダーシップ)。	1.古代から近世に至る美術の主要作品について基本的な知識をもち、説明することができる。(客観性・自律性) 2.くずし字や漢文がある程度読めるようになり、基本的な翻刻や現代語訳ができる。(課題発見・解決力) 3.学術書の構造をある程度理解し、基本的な事柄が読解できる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 4.美術制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から考察する視点を部分的に獲得している。(リーダーシップ)。
文芸学特講H	文芸学研究科 文芸学専攻 文芸学領域	1・2	2	美術作品を通じて、テキストとイメージが相互に補完し合って成立する文化について理解する。古代から近世の美術作品の銘文・詞書・資料の翻刻や現代語訳、また画面の様式分析を行う能力を身に付ける。その上で、美術制作の社会的な意義について、信仰や政治などとの関係性から多面的に理解を深める。	1.古代から近世に至る美術の主要作品について十分な知識をもち、詳細に説明することができる。(客観性・自律性) 2.くずし字や漢文が十分読めるようになり、翻刻や現代語訳ができる。(課題発見・解決力) 3.学術書の構造を十分に理解し、自ら主体的に読みこなせるようになる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 4.美術制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から多面的に考察する視点を十分獲得している。(リーダーシップ)	1.古代から近世に至る美術の主要作品について基本的な知識をもち、説明することができる。(客観性・自律性) 2.くずし字や漢文がある程度読めるようになり、基本的な翻刻や現代語訳ができる。(課題発見・解決力) 3.学術書の構造をある程度理解し、基本的な事柄が読解できる。(客観性・自律性) (課題発見・解決力) 4.美術制作の社会的な意義を、信仰や政治などとの関係性から多面的に考察する視点を部分的に獲得している。(リーダーシップ)。
論文研究	文芸学研究科 文芸学専攻 論文指導	2	2	修士論文を完成するための実際的な知識と技能を身に付ける。修士論文の提出期限に合わせ、計画的に調査・分析・考察・執筆を行い、論文の完成を目指す。	1.修士論文を完成するための実際的な知識が十分についている。(知識・理解) 2.修士論文を完成するための実際的な技能が十分についている。(技能) 3.計画的に調査・分析・考察・執筆ができており、修士論文が完成している。(思考・判断・表現)	1.修士論文を完成するための基礎的な知識が身に付いている。(知識・理解) 2.修士論文を完成するための基礎的な技能が身に付いている。(技能) 3.計画的に調査・分析・考察・執筆ができています。(思考・判断・表現)